



令和8年度

水稻生育診断情報 No. 3

(令和8年7月15日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL: 0748-46-4391)

(次回は7月下旬の予定)

現在の生育状況

- ◎作況調査(5月10日移植)の「みずかがみ」、「コシヒカリ」では、草丈は平年並～やや短く、茎数は平年並～やや多く、葉色は平年並。幼穂形成期は、「みずかがみ」では平年より3日早い6月27日、「コシヒカリ」では平年より2日早い7月1日であった。
- ◎県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年よりやや早く幼穂形成期を迎えている。(早生品種は2～3日程度、中生品種は1～2日程度)
- ◎梅雨明け(7月8日)後は高温で推移し、今後も高温傾向が続く予報であることから、幼穂形成期から出穂期までの日数が平年より短くなり、出穂期も平年より早まる見込み。

管理のポイント

- ◎生育状況はほ場により異なるので、穂肥施用にあたっては、必ず幼穂を確認するとともに、生育(葉色・茎数)に応じて、適期に適量を施用する!
- ◎全量基肥(一発肥料)栽培においても、生育に応じて耐暑肥^{たいしよごえ}を施用する!
- ◎出穂前後各3週間(計6週間)は常時湛水を行う! 深水にせず水深3cmから5cmの浅水で管理する! 中干し後は水もちが悪いほ場が多く、こまめな水管理を行う!
- ◎斑点米カメムシ類の発生量が多く被害の多発が懸念されるため、畦畔2回連続草刈りや発生状況に応じた防除を実施するなど、斑点米被害対策を徹底する!

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過(彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
6月	上旬	平年並	高い	かなり少ない	かなり多い
	中旬	高い	平年並	多い	かなり少ない
	下旬	かなり低い	やや低い	かなり少ない	かなり多い
7月	上旬	かなり低い	かなり低い	平年並	かなり少ない

※気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)
 ※日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)
 ※降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

(2) 地温、土壌窒素の推移

- 日平均地温は、6月上旬は平年並～やや低く、6月中旬は平年並～やや高かったが、6月22日から7月7日にかけて平年よりも低く推移した。その結果、移植後の5月12日～7月7日までの積算地温は、平年と比べ12.1℃高くなった。
- 6月30日時点で、窒素無施用区の水稲窒素吸収量は、平年と同程度であった(2026年:3.00kgN/10a、平年:2.95kgN/10a)。一方で、土壌中のアンモニア態窒素残存量は多かった(2026年:0.91mgN/乾土100g、平年:0.34mgN/乾土100g)、水稲窒素吸収量と土壌中アンモニア態窒素残存量を合わせた地力窒素発現量は、平年に比べ多いとみられる。

(3) 近畿地方1か月予報(7/11~8/10) (大阪管区气象台7月9日発表)

- 向こう1か月は晴れの日が多い見込み。
- 平均気温は高い見込み(高い確率 50%)。期間の前半はかなり高くなる可能性がある。
- 降水量は、県北部は平年並か少なく、県南部はほぼ平年並の見込み。
- 日照時間は、県北部は平年並か多く、県南部はほぼ平年並の見込み。

(4) 近畿地方3か月予報(7月~9月) (大阪管区气象台6月23日発表)

- 向こう3か月の平均気温は、期間の前半を中心に高い見込み(高い確率 50%)。
- 月別の気温は、7月、8月は高い確率 60%、9月は平年並の確率 40%。
- 向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並の見込み(平年並の確率 40%)。

2 生育状況

【農業技術振興センター水稻作況調査(7月10日時点)による。表1および後掲グラフ参照。】

- 草丈は「みずかがみ」は平年よりやや短く、「コシヒカリ」は平年並。
 - 茎数は「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年よりやや多い。
 - 葉色は「みずかがみ」、「コシヒカリ」とともに平年並。
 - 主幹葉数は「みずかがみ」、「コシヒカリ」とともに平年並。
 - 幼穂形成期は「みずかがみ」では平年より3日早く、「コシヒカリ」では平年より2日早い。
- ※「きらみずき」は、試験中に施肥計画との相違が生じたため、今年度の結果は公表を控えています。なお、農業技術振興センター内や現地の状況から、本年の「きらみずき」は茎数がやや多く、やや早い生育とみられます。

表1 令和8年(2026年)水稻作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草 丈(cm)				茎 数(本/m ²)				葉 色(SPAD 値)				主幹葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
6/20	みずかがみ	48.2	44.3	109	48.8	573	462	124	366	40.0	41.4	97	43.9	10.0	9.8	0.2	10.1
	コシヒカリ	49.0	45.5	108	48.7	653	497	131	394	40.0	42.4	94	42.6	9.9	9.5	0.4	9.5
	きらみずき	38.7	-	-	44.3	450	-	-	373	36.6	-	-	41.9	9.3	-	-	9.7
6/30	みずかがみ	66.0	63.1	105	67.7	569	518	110	481	41.0	41.6	99	42.8	11.3	11.2	0.1	11.6
	コシヒカリ	68.1	64.2	106	65.8	679	580	117	499	40.5	41.3	98	41.4	11.0	10.8	0.2	11.0
	きらみずき	-	-	-	60.0	-	-	-	519	-	-	-	40.4	-	-	-	11.3
7/10	みずかがみ	77.8	81.7	95	86.0	510	490	104	464	39.9	41.2	97	41.6	12.8	12.7	0.1	13.1
	コシヒカリ	81.1	81.1	100	86.9	591	539	110	478	36.4	37.8	96	39.0	12.0	12.0	0.0	12.3
	きらみずき	-	-	-	68.6	-	-	-	504	-	-	-	36.0	-	-	-	12.4

※移植日:5月11日(播種日:4月21日)、栽植密度:18.5株/m²、植付本数:3本/株

※比および較差は平年との比較。平年は、H28~R7年(10年間)の平均値。

※「きらみずき」はR6年から調査開始。今年度は試験中に施肥計画との相違が生じたため、6月30日以降の結果は公表を控えています。

7月13日現在の生育状況



みずかがみ



コシヒカリ

表2 水稻作況調査 生育ステージ（7月13日時点）

滋賀県農業技術振興センター（近江八幡市安土町大中）

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月26日	6月29日	3日早い	6月29日
出穂期	未	7月22日	－	7月19日
成熟期	未	8月25日	－	8月22日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月1日	7月3日	2日早い	7月1日
出穂期	未	7月26日	－	7月24日
成熟期	未	8月30日	－	8月28日

品種：「きらみずき」

生育期	本年（参考値）	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月13日	－	－	7月13日
出穂期	未	－	－	8月5日
成熟期	未	－	－	9月14日

※移植日：5月11日（播種日：4月21日）、栽植密度：18.5株/㎡、植付本数：3本/株

※比および較差は平年との比較。平年は、H28～R7年（10年間）の平均値。

※「きらみずき」はR6年から調査開始。今年度は試験中に施肥計画との相違が生じたため参考値とします。

3 今後の管理

（1）生育に応じた穂肥等の施用

- 本年は平年と比べて生育が早まっており、幼穂形成期は1～3日程度早いとみられるが、移植日やほ場条件により生育ステージが違いため、幼穂長をしっかりと確認し、幼穂形成期の生育に応じて、穂肥の施用時期および施用量を調整する。
- 登熟期における栄養不足を回避するため、穂肥は適期に必要な量を確実に施用することが重要である。

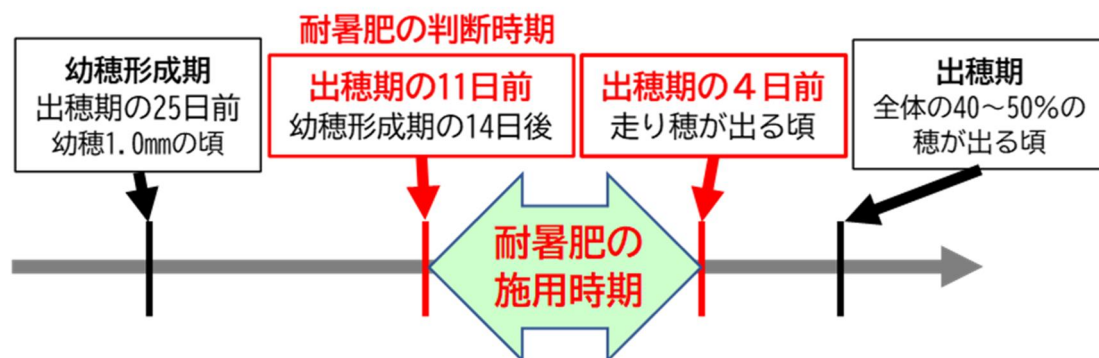
◇夏季の高温に備えた耐暑肥^{たいしよごえ}の施用

- 追肥不足や地力が低いほ場では登熟期間の葉色が低下しやすく、背白粒、基部未熟粒の発生が助長され、出穂後の気温が高温になった場合、白未熟粒の発生割合が高くなる。特に、幼穂形成期の生育が標準量を超えて籾数過多のほ場で顕著である。
- 本年は分げつが旺盛で追肥が必要な生育（NDVI 値）のほ場が多い。
- そのため、高温が予想される場合は、全量基肥（一発肥料）栽培であっても出穂の11日前頃（幼穂形成期の14日後）までの葉色が淡い（葉色版で4.0（葉緑素計値36）以下）ほ場では、玄米品質の低下防止のための耐暑肥（出穂11日前から出穂4日前までの間に2kg N/10aを限度）を施用する。

※環境こだわり栽培では化学肥料窒素成分の上限4kg/10aに注意。

※出穂4日前（早い穂が出始める頃）以降の追肥は食味を落とすため、施用しない。

※葉いもちや倒伏の発生が懸念されるほ場は施用しない。



◇「コシヒカリ」の穂肥

■「分施肥体系」の場合

- ・ 出穂 18 日前 (幼穂形成期の 7 日後 = 幼穂長 1mm 確認 7 日後) と出穂 11 日前 (幼穂形成期の 14 日後) の分施肥体系を基本とし、幼穂形成期の生育が標準量であれば、1 回目と 2 回目の施用量は均等分施 (2 kgN/10a × 2 回、「2 - 2 体系」とする)。
- ・ ただし、幼穂形成期の生育が標準量を超えた (株張りが大きく、葉色が濃い) 場合、籾数過多による品質低下が心配されるため、2 回目の穂肥施用に重点を置き、1 回目に 1 kgN/10a、2 回目に 3 kgN/10a の分施肥体系 (「1 - 3 体系」とする (表 3))。

表 3 「コシヒカリ」の穂肥施用基準

幼穂形成期の生育状況			穂肥施用方法(施用量の単位は 10a 当たり窒素量)
株張り (60 株/坪植の 茎数)	葉色		
	葉緑素計値 (葉色板値)		
大 (25 本/株以上)	濃	35(3.8)以上	出穂 18 日前 (幼穂形成期 7 日後) に 1 kg、 出穂 11 日前 (幼穂形成期 14 日後) に 3 kg 施用
	淡	35(3.8)未満	出穂 18 日前 (幼穂形成期 7 日後) に 2 kg、 出穂 11 日前 (幼穂形成期 14 日後) に 2 kg 施用
標準 (20～25 本/株)	濃	35(3.8)以上	
	淡	35(3.8)未満	
小 (20 本/株以下)	濃	35(3.8)以上	
	淡	35(3.8)未満	

■「全量基肥 (一発肥料) 栽培」の場合

- ・ 幼穂形成期の茎数が多く (茎数の目安: 1 株当たり 25 本以上)、籾数過多が予想されるほ場や、出穂 11 日前頃 (幼穂形成期の 14 日後) までの葉色が淡いほ場 (葉色の目安: 葉色板 4 (葉緑素計値 36) 以下) では、登熟期の栄養不足が予想されるため耐暑肥 (出穂 11 日前から出穂 4 日前までの間に 2 kg N/10a を限度) を施用する。

◇「きらみずき」の穂肥

- 「きらみずき」は有機質肥料を施用することから、1 回目を幼穂形成期 (幼穂長 1 mm) の 1 週間前頃と、2 回目を 1 回目の 2 週間後 (幼穂形成期の 1 週間後頃) が施用の適期である。
- 以下の施用時期の目安を参考にほ場を確認し、穂肥を施用する。
- 葉いもちが発生するなど穂いもちの発生が懸念される場合は施用時期を遅らせるなどの対応を検討する。

「きらみずき」の穂肥の目安

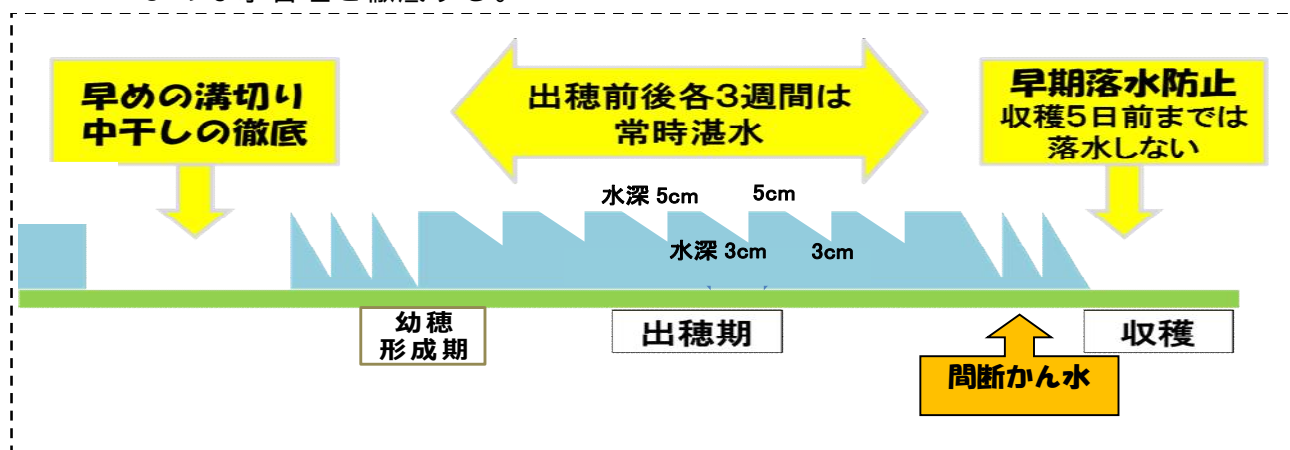
施用時期	移植時期 (5月10日移植) (5月20日移植)	1回目穂肥 7月7日頃 7月11日頃	2回目穂肥 7月21日頃 7月25日頃
追肥施用量	それぞれ有機質肥料で窒素成分3kg/10a (2回分施 合計窒素成分6kg/10a)		

※農業技術振興センター（近江八幡市）における「きらみずき」（5/10移植、中苗、R2～R6年）の出穂期データを基に、幼穂形成期が3日程度早まる事を前提として施用時期を推測しているため、今後の天候や地域によって施用時期が異なる可能性があります。

(2) 適正な水管理

《出穂前後各3週間の常時湛水》

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成を行うことができず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う。
 - 湛水管理はカドミウムの吸収抑制にも有効である。
 - 常時湛水管理にあたっては、常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3cmから5cmの浅水で管理する。
- ※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



(3) 病虫害防除

7月7日発表の「病虫害発生予報第6号」参照

<https://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/yohou/336942.html>



① イネいもち病（葉いもち、穂いもち）（発生時期：やや早い、発生量：やや少）

- 葉いもちは、穂いもちの伝染源となるため、発生を認めたら薬剤を散布する
- 穂いもちは、ほ場の状況（水稻の生育やいもち病の発生状況）をよく確認し、適期に防除する。
 - ・粉剤、液剤(水和剤・乳剤等)は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
 - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループの薬剤を連用しない。
- 環境こだわり栽培の場合は使用可能成分数を超過しないように注意する。

【BLASTAM(ブラスタム)】

BLASTAMはアメダスの降水量、日照時間、風速から葉の湿潤時間を推定し、気温と葉の湿潤時間の組み合わせで、いもち病の感染に好適な条件となっているかどうかを判定するモデルです。

令和8年(2026年) BLASTAM 結果										
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	火	●	-	-	-	●	-	-	-	-
6月3日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	火	●	●	○4	-	-	○4	-	-	○1
6月10日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	月	-	-	-	-	-	-	-	○1	-
6月16日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月17日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	土	-	-	-	-	-	-	●	●	-
6月21日	日	-	-	-	-	-	●	-	-	-
6月22日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月24日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	木	●	○4	●	●	●	●	●	●	-
6月26日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月27日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	○4
6月29日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	木	-	-	-	-	-	-	-	●	-
7月3日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	日	●	●	-	●	●	-	-	-	-
7月6日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月7日	火	-	●	-	-	-	●	-	-	-
7月8日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	?
7月10日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月11日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標】

●: 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある。)

○1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)

○2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)

○3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃以外)

○4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)

? : 判定不能

②紋枯病（発生時期：やや遅い、発生量：平年並）

■前年に発生が多かったほ場では特に注意する。

■防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂 20 日前の発病株率が 15～20%以上。

■病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

■粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後 1 週間は落水やかけ流しはしない。

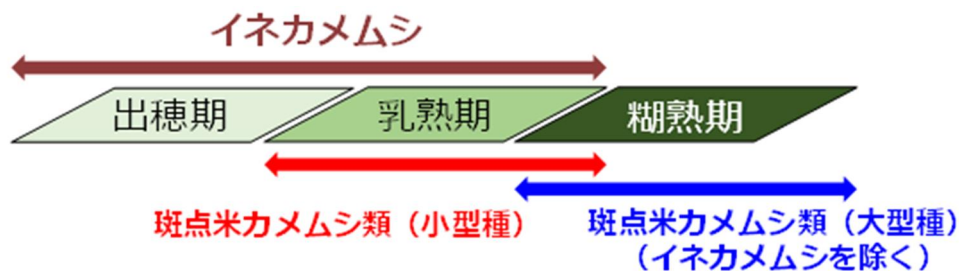
③斑点米カメムシ類（発生時期：7月中旬以降（加害時期）、発生量：多）

7月15日発表の「病害虫発生予察注意報第3号」参照

<https://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/keihou/103721.html>



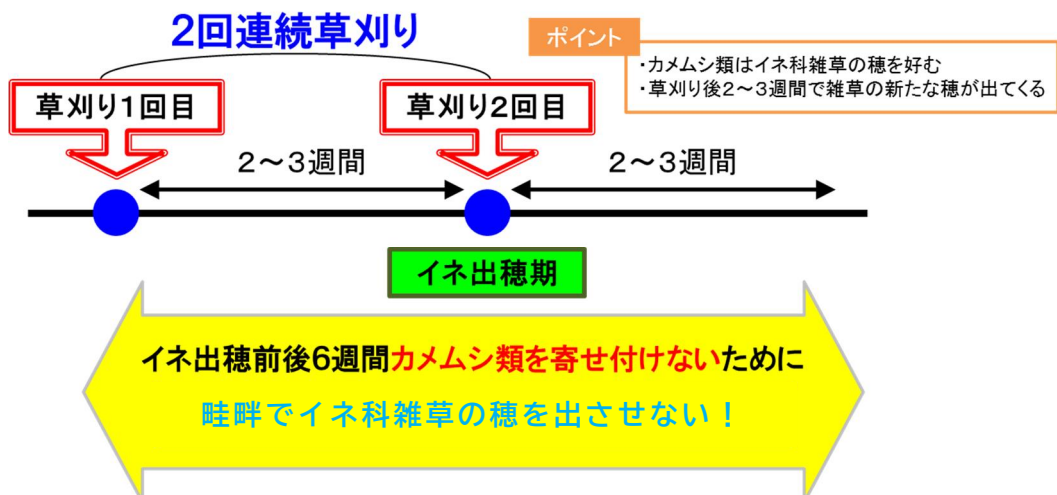
- 7月8日～9日に県内36地点の畦畔雑草で実施したすくい取り調査において、斑点米カメムシ類の平均生息数は、大型種が平年の約1.6倍、小型種が約1.9倍であり、被害の多発が懸念される。
- 出穂した畦畔のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類がほ場周辺に誘引される要因となる。草刈りによるイネ科雑草の出穂抑制は、概ね3週間程度であるため、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃に除草する。
- 雑草管理が不十分で畦畔や雑草地にイネ科雑草の出穂が多く認められる場合、本田の出穂後に除草すると斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草する場合は、本田での薬剤防除前日に実施する。
- 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に抜き取る。
- イネカメムシ成虫が多いほ場では、出穂期～乳熟期に防除する。
- ほ場周辺の畦畔や雑草地にアカスジカスミカメなどの小型種が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。穂揃期にホソハリカメムシなどの大型種が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に）出穂10～20日後）に防除する。
- 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。
- 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類が多く生息している場合は、追加防除を行う。
- 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。



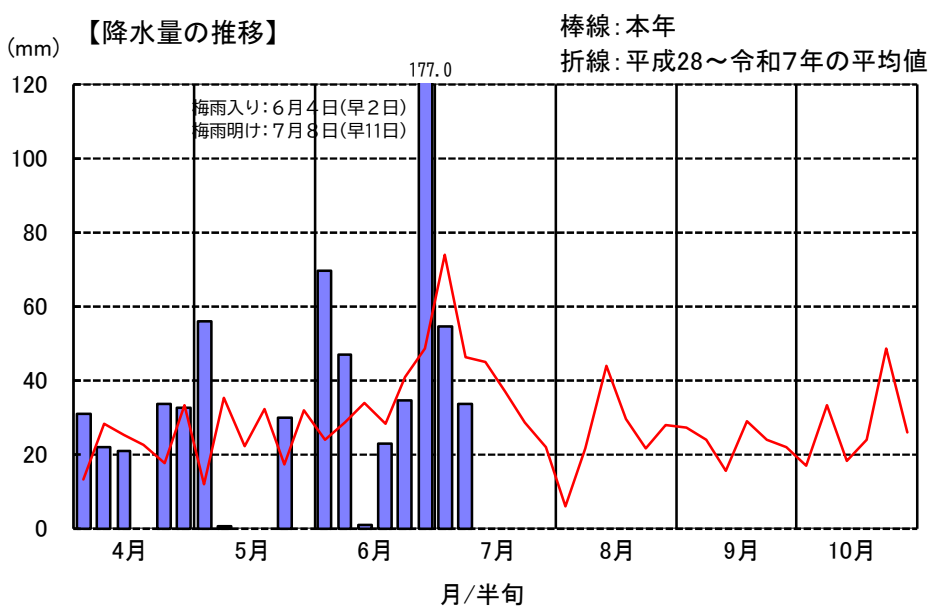
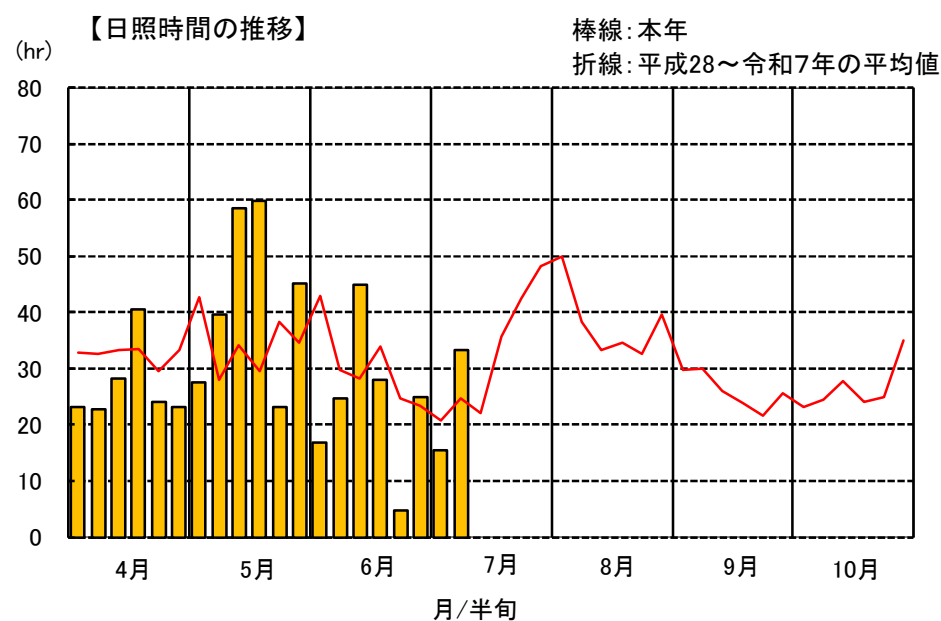
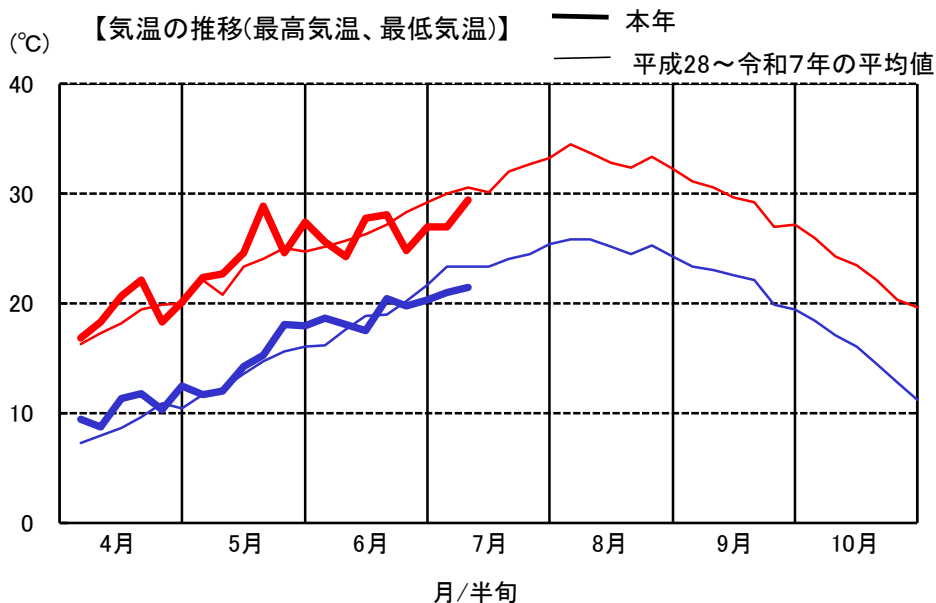
◇斑点米カメムシ類対策

畦畔2回連続草刈りでカメムシ防除

- ① 出穂2～3週間前と出穂期の2回連続で、畦畔の草刈りを行う。
- ② 畦畔でイネ科雑草の穂を出させない。
- ③ 地域で話し合い、一斉に行う。



令和8年(2026年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



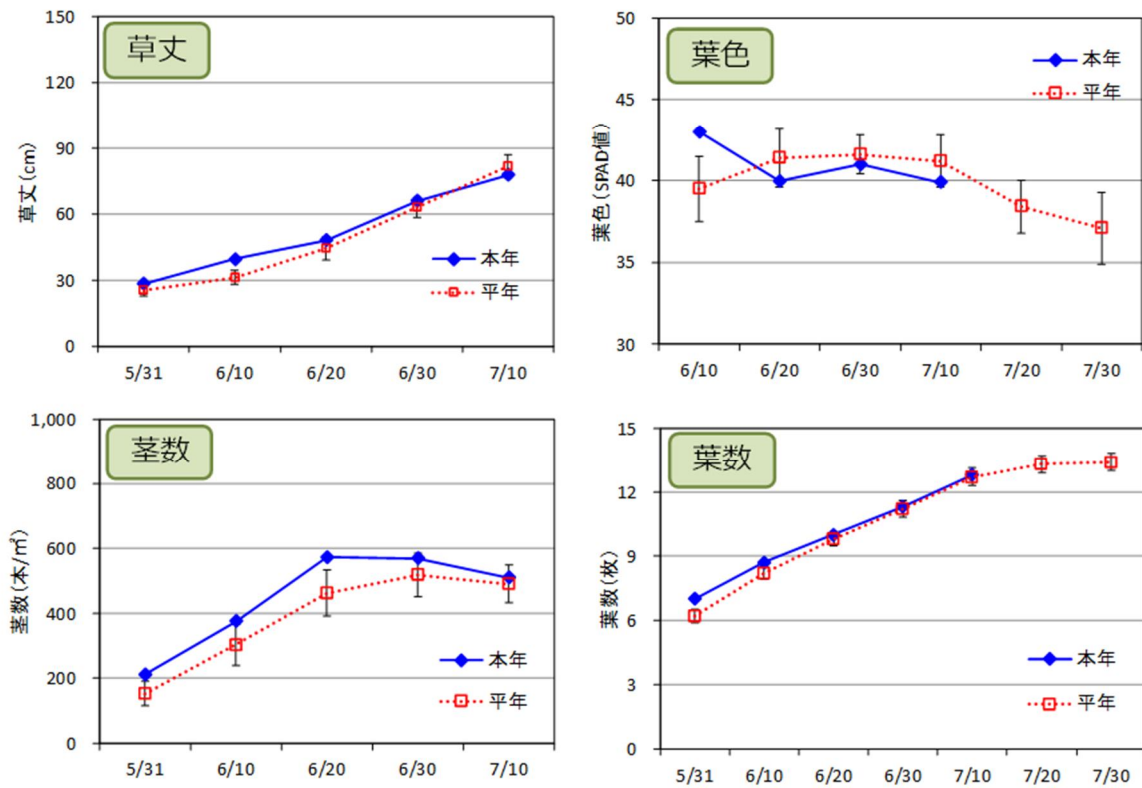
注) 平年は平成28～令和7年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

令和8年(2026年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

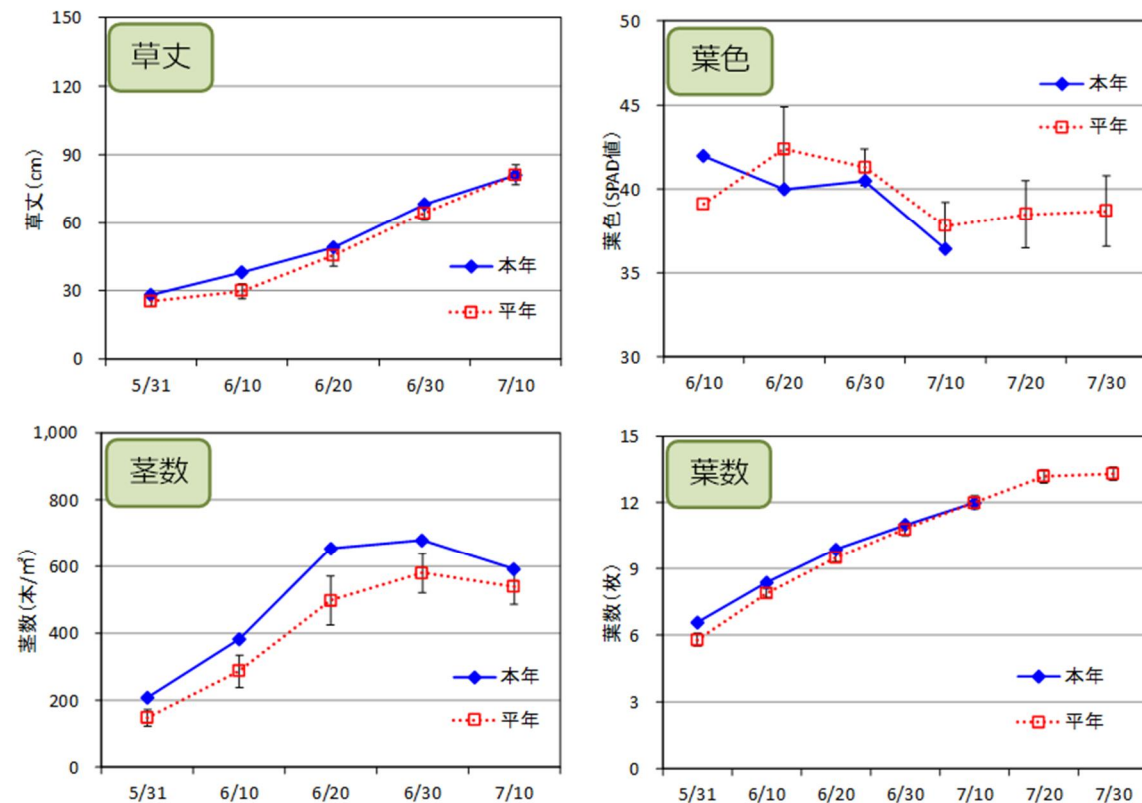
みずかがみ

播種: 4月21日、移植: 5月11日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



コシヒカリ

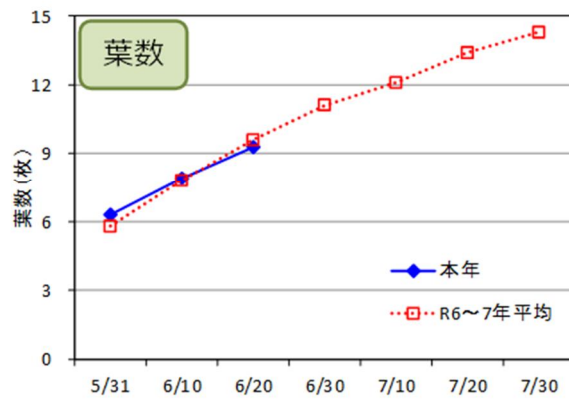
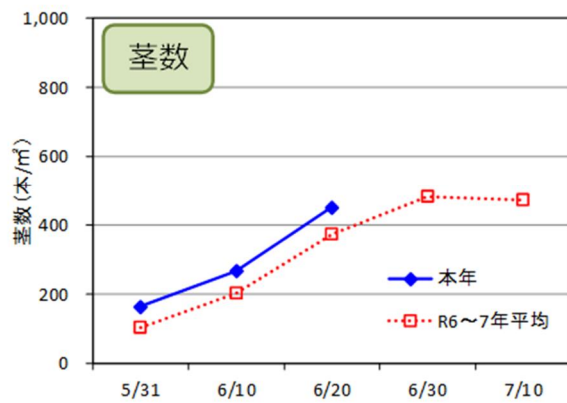
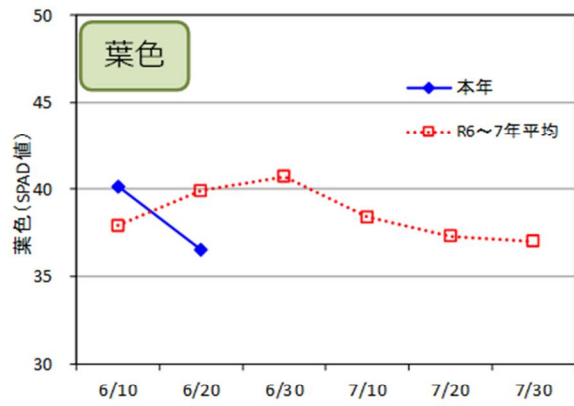
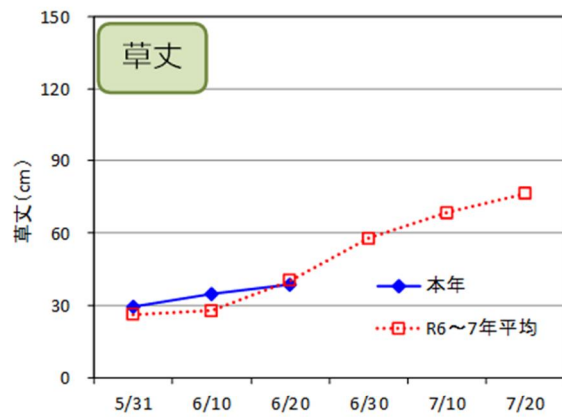
播種: 4月21日、移植: 5月11日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



注) 平年は過去10年(H28年~R7年)の平均値。

きらみずき

播種: 4月21日、移植: 5月11日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



※「きらみずき」はR 6年から調査開始。

今年度は試験中に施肥計画との相違が生じたため、6月30日以降の結果は公表を控えています。

～農業情報の配信について～

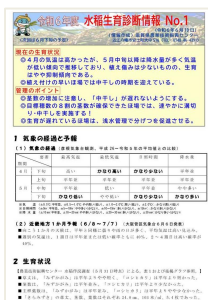


- 滋賀県では、「防災・防犯等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報やイベントのご案内など」を、ご希望の方へ情報配信しています。
- 台風等の気象災害や病害虫の発生が懸念される際に農業技術情報や農業に関するイベントの案内など農業者向けの情報も配信しています。農業に関するタイムリーな情報収集手段の一つとして、是非ご利用ください。
- 詳しいサービスの説明、ご利用上の注意及び利用規約は下記の滋賀県ホームページをご覧ください。

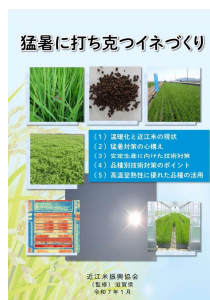
滋賀県ホームページ「しらが（しらせり滋賀情報サービス）ご案内」
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/306374.html>



収量・品質確保のための参考資料



水稲生育診断情報
(滋賀県 HP)



猛暑に打ち克つイネづくり
(近江米振興協会 HP)



水田土づくりマニュアル
(滋賀県 HP)

【参考サイト】

農業技術振興センター
 病害虫防除所
 彦根地方気象台
 早期天候情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougyicenter/>
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>
<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/>



農業技術振興センター



病害虫防除所



彦根地方気象台



早期天候情報



Instagram始めました

滋賀県農業技術振興センターの
公式アカウントです
各研究部門・農業大学校・
農業革新支援部から
旬の情報やお知らせを
お届けします
フォローをお願いします！
(写真は配信内容イメージです)



NOUGI_SHIGA

各研究部門
農業革新支援部



SHIGA_NOUDAI

農業大学校



滋賀県農業技術振興センター